

KFCと尚絅学院大がつくる名取のメディア

ハナモモ通信

2017年 3月



ハナモモちゃん

【発行】河北新報普及センター
 【協力】尚絅学院大 河北仙阪
 【エリア】名取市内
 【部数】11,600部
 【電話】022(266)2991



感謝の気持ち伝え、前へ

3・11追悼イベントに向け絵灯籠作り

各地から寄せられた温かい気持ち



製作途中の絵灯籠



東日本航空専門学校3年の佐藤瞭介さん(左)と阿部光生さん(右)

●3・11追悼に向けて絵灯籠を並べて鎮魂の祈りをささげる「3・11なとり・閉上追悼イベント2017」で使用される絵灯籠の製作作業が2月25日、パナソニック仙台工場で開催され、市内外から70人を超えるボランティアが参加しました。



左から、齋藤寛菜(かんな)ちゃん、崇輔(そうすけ)くん兄妹、遠藤汐音(しおん)ちゃん

●海外からも震災以降、追悼イベントの運営や準備に参加したボランティアは2900人を超え、各地から集められた絵は5万8000枚にもなります。東京や神奈川、愛媛、福井、さらにはアメリカやカナダと遠く海外から送られてきたものもあり、参加者は、絵に込められた思いをくみ取りながら

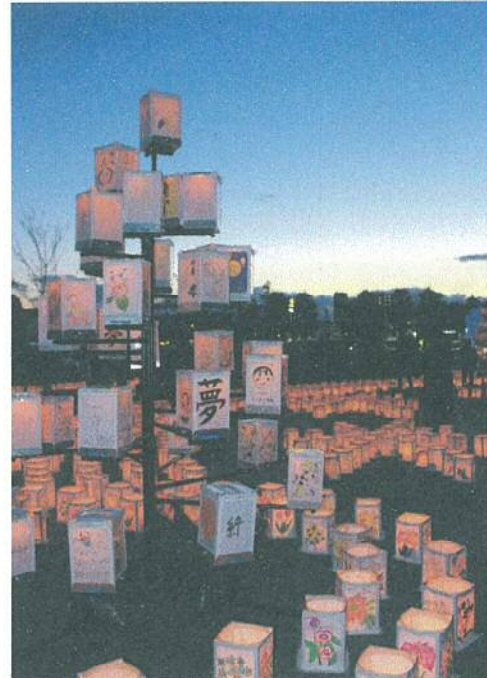
絵灯籠は、紙の枠組みに4枚の絵を貼り付け、箱型にしたものを土台と組み合わせます。明かりをとめすと、ろうそくの火が静かに美しく揺らぎます。東日本大震災で、校舎が津波の被害にあった東日本航空専門学校の学生と教員ら14人も参加しました。同校3年の阿部光生さんは「のり付けが思ったよりも難しかった。私たちが製作した絵灯籠が被災者の方々に元気付けのきつかけになればいい」と力強く話します。



司会を担当させていただきました

「3・11なとり・閉上追悼イベント2017」は、3月11日、名取市役所駐車場内噴水広場にて行われました。イベント当日は、今回製作された紙の絵灯籠をはじめ、パナソニック仙台工場の協力で4年前に開発された、雨風にも耐える電子絵灯籠も並べられました。今回追悼イベントのボラ

希望の光に 思い込めて



夕暮れが近づき優しい光に包まれた

一枚一枚丁寧に貼り付けていきました。
 ●感謝の気持ち忘れず
 実行委員長の佐々木悠輔さん(35)は「震災から6年、

名取への温かい気持ちを寄せ続けてくれた方々に感謝しながら製作に臨むことができた」と話しました。

お詫びと訂正

2月号で掲載した、「ありがとう思い出の幼稚園」高館幼稚園の、開園から45年は、46年の間違いでした。関係者・読者の方々にお詫び申し上げます。

「3・11なとり・閉上追悼イベント2017」は、3月11日、名取市役所駐車場内噴水広場にて行われました。イベント当日は、今回製作された紙の絵灯籠をはじめ、パナソニック仙台工場の協力で4年前に開発された、雨風にも耐える電子絵灯籠も並べられました。今回追悼イベントのボラ

(阿部 杏圭)

化学物質過敏症に理解を

小野寺さん体験語る

化学物質過敏症(CS)の患者さんをはじめ、ご家族の方、勉強したい方など、どなたでも参加できる「患者会」(みやぎ化学物質過敏症・アレルギーの会)が2月12日、木香織さんが代表、佐々木取駅コミュニティプラザで開催されました。

化学物質過敏症は、わずかな化学物質に反応して、身体にさまざまな症状を引き起こす病気です。誰でも発症する可能性があります。

ゲストの小野寺恵(けい)さん(49、岩手在住)は、この病気を完治された1人で、自身の闘病生活とともに、克服までの道のりを説明し、化学物質過敏症について「この病気が理解されにくいことについて理解してもらいたい」、さらに「患者が声をあげることが大切」と話しました。参加者の1人は「この病気を理解してくれる人が少ないが、このような会を通して孤独感が薄れる。小野寺さんの話を聞いて希望の光がみえた」と述べました。

(渋谷 胡桃)



自らの体験談を話す小野寺さん(右は佐々木さん)

化学物質過敏症? 住宅建材や洗剤などの化学物質に反応し、硬直、記憶障害、頭痛、吐き気、失神、呼吸困難などに陥る病気。阪神大震災後に患者が急増したこともあり、別名「震災病」とも言われる。シックハウスやアレルギーから発症する人が多く、患者数は全国で100万人。病気に気づかず生活している予備軍は1000万人に上る。東日本大震災時にも他人の服の柔軟剤の臭いで避難所に行けない人や仮設の建物で発症する人もいた。

2009年に病名登録されたが、宮城県をはじめ病気の知名度は低く、県内では診断できる医師もいないのが現状。今後患者数が増える予想される。

河北新報普及センターからのお知らせ

●世界遺産ラスコー展

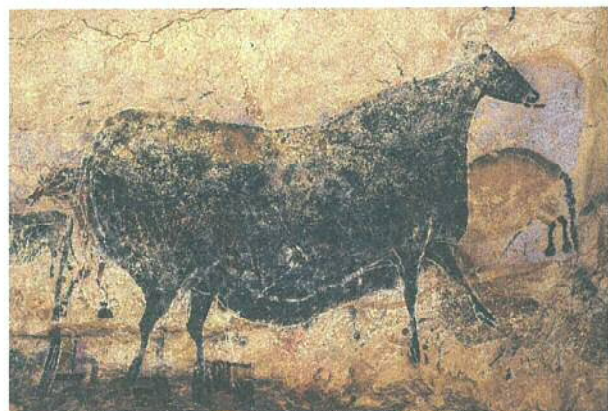
約2万年前にクロマニヨン人が描いた壁画を実物スケールで紹介する「世界遺産ラスコー展 クロマニヨン人が残した洞窟壁画」が3月25日～5月28日まで、多賀城市の東北歴史博物館で開催される。

主催は河北新報社、東北歴史博物館、東北放送、毎日新聞社。

約2万年前、フランス南西部のヴェゼール渓谷にあるラスコー洞窟にクロマニヨン人によって躍動感のある動物たちが描かれた。この壁画は色彩の豊かさや技法、600頭とも言われる動物の数と大きさなどの特徴が評価され、1979年、世界遺産に登録された。

本展では、保全のために非公開となっている壁画を、最新技術を駆使し精密に再現。謎に包まれたラスコー洞窟の全貌を紹介するとともに、洞窟に残された絵の具や、線刻画を描くために使われた石器なども展示し、2万年前の人類の創造性を解き明かす。

休館は5月1日を除く毎週月曜日。
入場前売り券は一般1300円(当日1500円)、シルバー(65歳以上)・学生1200円(同1400円)、小・中・高校生400円(同600円)。前売り券の申し込みは、河北新報普及センター(266)2991(島山)。



実物大で再現される壁画「黒い牝ウシ」 c SPL Lascaux international exhibition

2万年の時を超えて 躍動する動物たちの姿 精密に実物大で再現

●お友だち紹介キャンペーン

河北新報社では、昨年引き続き「お友だち紹介キャンペーン」を実施しています。

河北新報の新規購読者(12カ月以上)をご紹介していただいた方には、5000円分(6カ月以上の場合は3000円分)のJTBナイスギフト券を、紹介されたお友だちにも、1000円分(6カ月以上の場合は500円分)のクオカードをプレゼント。対象は2017年10月まで購読を開始される方で、お一人様何名でもご紹介可能です。申込期間は5月31日まで。なお、ギフト券、クオカードは、購読開始日以降のお届けとなります。キャンペーンの申し込みは次の通り。フリーダイヤル(0120)093746、オペレーターに「お友だち紹介キャンペーンのチラシを見た」と伝えてください。申し込みは河北新報社ホームページからも可能です。問い合わせは、河北新報社 販売部(211)1302。

【次の場合は対象外】
現在、河北新報を購読されている方、ご購入予約をされている方、キャンペーン期間に購読中止された方、ご本人自身の紹介。

子育て、学力アップにお悩みの
お母さん、お父さんに
オススメの本ができました!!

やる気の本。

岩手県立大学 学び応援チーム



岩手で20年
印刷技術のついで
島山 明が贈る
「やる気」(学校)
を引出す方法

●A5判 ●176ページ
定価 1,000円+税

河北新報普及センター販売所
(郡智が丘・大手町・南名取・名取)
で発売中!

島山 明と学び応援チームが伝えたい、やる気がアップする「共有体験」

お問い合わせは、河北新報普及センター(島山)まで

プレゼント企画!

「世界遺産ラスコー展 クロマニヨン人が残した洞窟壁画」のペアカットを抽選で5名の方へプレゼント!住所、氏名、年齢、電話番号、ハナモモ通信を讀んでの感想、要望などを記入してメールがファクス、または郵送で先まで。3月24日締切。

(住所)

〒980-0022

仙台市青葉区五橋1-

1-10

(FAX)

227-8333

「KFCハナモモ通信プレゼント」係まで。